

図書館だより

NO.26

平成30年12月1日発行
函館工業高等専門学校



目次

私の読書	1
特集 学生の読書感想文	2・3
退職教員の読書のすすめ	4・5
本校教員執筆図書紹介	6
若手事務職員からのおすすめ本	7
私と図書館	8
図書委員の活動報告	8・9
図書館からのお得情報	10
学年・学科別利用状況	10
編集後記	10



私の読書

図書館長 高田 明雄

小学生の頃から読書が苦手な私でしたが、学生時代に国語の授業で出された課題のために選んだいくつかの作品、例えば、差別・格差を描写した長編作『橋のない川（住井すゑ）』（全7巻）、我が国の技術発展を支えた人間ドラマを伝える『匠の時代（内橋克人）』や『戦艦武蔵（吉村昭）』などは読み終えた後、何とも言えない複雑な気持ちになりました。若い頃は、R.ファインマン（ノーベル物理学賞受賞）の『ファインマン物理学』を読んで、「ベクトル場におけるストークスの定理と電流・磁場の関係（アンペールの法則）」に関する疑問が氷解したことをきっかけに、彼の自伝書『ご冗談でしょう、ファインマンさん』そして、彼の伝記シリーズをすべて読みました。常識にはとらわれず、人間味にあふれ、さらには権威を毛嫌にする彼の生き方・思想は私を虜にしました。年を重ねるにつれて、人・心理・組織・方法論などの様々な分野・テーマについて数々の書に出会いました。その中に人間や動物の行動に潜む根源的な行為「選択」について明

らかにした著『選択の科学：The Art of Choosing（S.アイエンガー）』があります。著者は子供の頃に視力を失った米国有名大学教授の女性です。やりたいことを直ぐ実行するか・我慢するか、楽な道・苦しい道どちらを選ぶのか等々、人生は「選択」の繰り返しです。著者は、「選択を行う方法の違い」がもたらす「結果の違い」等について数々の証拠・事例に基づいて説いており、例えば、社長は従業員に比べて裁量権（選択権）が大きい平均寿命が長いことや、人は他人と同じに見られることを避けるため結果的に不利益な選択をしてしまうなどがあります。現代科学が解き明かした人生における「選択の役割」に対し、約四百年前に書かれ、これまで多くの翻訳者を介して読み継がれている随筆集『菜根譚（洪自誠）』もある意味で選択の方法を指南しています。人が暮らす社会での手引書（処世訓）のようなものですが、時間があるときにまた読みたいと思っています。

特集

学生の 読書 感想文

泊先生の
ビブリオバトルの授業で
チャンプになった本の
読書感想文です。



「崩れる 結婚にまつわる
八つの風景」を読んで

タイトル：崩れる 結婚にまつわる八つの風景

著者名：貫井 徳郎

出版社：角川文庫



2年生産システム工学科1組
小川 泰知

貴方は「結婚」についてどのようなイメージがありますか？ほとんどの方は安心、家族、幸せなどプラスのイメージが強いのと思います。今回紹介する本を読めば、その考え方も「崩れる」かもしれません。

この本は「結婚」をテーマに家族崩壊、ストーカー、DV、公園デビューなどの現代社会の問題をダイープな内容で描き出す、狂気と企みに満ちた8つのミステリ短編集です。

また、この本は『乱反射』を書いた貫井徳郎さんの数少ない短編集です。ですので、貫井徳郎作品の特徴である、終わった後にモヤモヤした感情、後悔した感情のようなものが心の中でいっぱいに浮かんできて、いろいろなことを考えさせられると思います。逆にそれが快感となり、貴方は貫井徳郎作品の虜になってしまうでしょう。短編集なので少し空いた時間にも読みやすいと思います。この一冊が貴方の人生を変えるかもしれない…。



「すみっコぐらしストーリーズ
ひみつのすみっコ生活ははじめました」を読んで

タイトル：すみっコぐらしストーリーズひみつのすみっコ生活ははじめました

著者名：せき ちさと

出版社：小学館



2年生産システム工学科2組
松本 梨恵瑠

私は『すみっコぐらしストーリーズひみつのすみっコ生活ははじめました』を読んで大人になるに連れて忘れてしまうことを思い出すことが出来たと思います。

この本は小学館が発行していて「小学生向け」「女の子向け」と思われてしまうことが多いのですが、だから読まない、と決めつけてしまうのはとてももったいないです。この本は2話あり、それぞれ別の女の子が主人公として描かれています。すみっ

コという不思議な生き物に励まされたりヒントを貰ったりして自分の力で問題を解決していきます。そんな姿を見て読者は癒されたり、共感することでしょう。実際にすみっコが存在していたらきっとこうする、などの想像もしやすく、日常の中で思い出しただけで心がほんのり暖かくなります。私はこの本を読んで新たな考え方をするようになれました。1度みなさんも手にとってみてはいかがでしょうか。



「今日も一日きみを見てた」を読んで

タイトル：今日も一日きみを見てた
著者名：角田 光代
出版社：角川文庫



2年生産システム工学科3組
福田 暉斗

この本は、著者が「トト」という名前の猫と暮らす中で感じたことを綴ったエッセイである。初めは猫より犬派であった著者が、トトと暮らす中で段々と猫好きになっていく様子からは、猫には言葉では言い表せない不思議な魅力があるのだと感じられた。書かれている話には、猫を飼ったことがある人なら経験したことがあるような出来事が多く、読み進めていく中で猫の飼い主として共感できることは

非常に多かった。その中でも、最後に書かれていた、「うちに来てくれてありがとう。私に会ってくれて、ありがとう。」という言葉には、とても共感できた。私も愛猫に出会ったことで、自分の考え方や生活に良い変化があったと感じるので、愛猫には感謝しなければならないと思う。この本を読んで、私は今よりも自分の愛猫のことを考えるようにし、感謝の気持ちを忘れないようにしようと思った。



「掟上今日子の備忘録」を読んで

タイトル：掟上今日子の備忘録
著者名：西尾 維新
出版社：講談社



3年物質環境工学科
高橋 穂香

『掟上今日子の備忘録』を読んで私は記憶とは何なのかということ深く考えさせられました。

この物語の主人公である掟上今日子は、寝てしまうと記憶がリセットされてしまう探偵です。今日子さんは記憶がリセットされてしまうため、探偵として入ってきた依頼を1日で片付けなければいけません。あるいは、今日子さんが寝てしまうまでに。つまり今日子さんには掛け値なくその日1日しか無い

のです。私が今生きていられるのは今までの記憶があるからこそで、記憶がなければどうなっていたのだろうと考えてしまいます。しかし小説の中の今日子さんの生き方は記憶がある人よりも強く勇ましい生き方だと私は感じています。ぜひ皆さんもそのような今日子さんの姿を小説を読んで感じてみてください。



「卒業」を読んで

タイトル：卒業
著者名：東野 圭吾
出版社：講談社



2年社会基盤工学科
菅原 直輝

卒業は、就職を前にこれから社会人になる男女学生の群像を描いたもので、剣道部や茶道部といったあまり学園ミステリーでは取り上げられなかった部活を題材にして、それを巧みに推理小説に組み込んだ作品です。大まかなあらすじは主人公の加賀恭一郎が密室で死んでしまった友人の死の謎を追求していく物語です。自分がおすすしめしたいポイントは、先ほども説明したが舞台設定がうまくできていることだと思います。例えば、ストーリーの中に剣道の

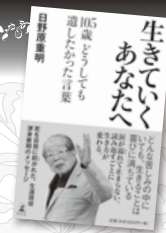
試合場面が効果的に散りばめられていて、それが一種のスポーツとミステリーの味わいを出していて、スポーツの場面かミステリーの場面かがはっきりと分かります。そしてもう1つ特徴があって、それは犯人を見つけ出すことよりも、犯人の動機や心情の探求を軸にストーリーを展開していることです。犯人の動機を探求していくと、やがて事件の真相に結びついていくのでとても読みやすく世界観に入り込みやすいです。

退職教員の読書のすすめ



生産システム工学科
藤原 孝洋

「生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉」



普段、技術に関わる資料や本を手にとると、必要などころや関心があるところだけを斜め読みしてしまいます。特に、インターネットに掲載された記事では、読み飛ばすことが多々あります。そんな折、105歳で亡くなられた日野原先生の最後の本を手にする機会があり、多くの言葉に触れました。それらの言葉の気持ちを斜め読みで考えることはできませんでした。そのいくつかを紹介します。

「生涯現役の人生」について、「普段イメージする現役の医師ではなく、自分が生きていることを社会に還元できるか、自分に与えられた命という時間をどれだけ人のために使えるかということが働くということ」、「その自分の使命と向き合い続ける状態こそが理想の現役像」と表されています。会社や組織で利益や有形の成果を上げることだけが現役ではないということのようです。そして、100歳を超えてなお、次の目標は、「未知なる自分と向き合い、自己発見すること」とのことでした。

また、医療分野のAIなどの技術の進歩について語られたところがありました。その技術によって多くの人の命が救われる可能性があることは事実です。その中であって、「機械化が進めば進むほど、愛情にもとづいた人間の行動が問われる」と言われています。そのような時、AIによって人の将来の犯罪の可能性を予測するシステムがテレビの番組で取り上げられました。しかも、AIがなぜその結果を出したかわからないが、AIが出した結果だからと受け入れ、その個人を監視するというのです。これは、本来の技術の進歩の目的に叶っているのか、正しい人の判断とは何かを考えさせられます。AIは、人が見いだせないことを発見できる可能性があります。しかし、その結果を如何に活用するかは、人に委ねられているのではないのでしょうか。それが、日野原先生の言われる「愛情にもとづいた人間の行動」ではないかと思います。



物質環境工学科
田中 孝

「本を読む学生と読まない学生」



授業にて教科書を音読させると、流暢に読む学生と、文節・単語の区切りや漢字の読みを間違える学生がいる。この差はなんだろうと思う。きっと、ネットゲームやSNSが楽しくなり読書から離れた結果ではないだろうか。

私もネットを便利に利用していますが、読書を忘れる事はありません。私の読書のスタートは、小学館の『世界少年少女の名作全集』でした。デュマの『巖窟王』やバルヌの『十五少年漂流記』、『海底二万海里』を貪るように読み、冒険小説・SF大好き少年が出来上がりました。中学生になると下村湖人の『次郎物語』やパールバックの『大地』にて世の中の不条理を学び、小遣いでSFマガジンという月刊誌を購読するようになります。高専生になると山岳部に所属していた影響から新田次郎の山岳小説『強力(ごうりき)伝』『孤高の人』など、また、当時のNHKの大河ドラマ『新平家物語(吉川栄治作)』の影響から時代小説も読み始めます。

教科書もきちんと読んでいましたよ。教科書は声を出して何度も読み返し内容を覚えてしまう習慣が中学生の頃から身に付いていたので苦になりませんでした。教科書で印象深かったのは初代校長太秦康光先生の『分析化学』と名誉教授長谷川俊勝先生の『有機化学入門』です。『分析化学』は分析操作とその理由を詳しく書いており、『有機化学入門』の発刊にあたっては実験器具の挿絵を私が描きました。どちらの書籍も授業や研究の参考書として今でも大切に使用しています。

太秦先生の『分析化学』は図書館に配架されていますが、長谷川先生の『有機化学入門』は図書館にありません。少々残念です。

読書習慣なんて面倒なことは言いません。たまには携帯を置いて本に親しみましょう。見回すと身近に本を読んでいる学友が沢山いると思いますよ。もう一度、読書の楽しさを思い出すことで、自然に勉強や教科書への敷居が低くなることを期待しています。



社会基盤工学科

大久保 孝樹

「読書嫌いの私が本を手にとった理由」



中学の時、国語の実力試験は30点台でかなり悪かった。身のほど知らずにも、理系(数学・理科)が得意であったので函館の進学校(中部・ラサール)を受けたが、見事に落ちた。中学浪人の始まりである。当時、中学浪人を対象とした第一予備校があった。高専信望者であった校長の影響もあって、翌年、高専に入学した。付け加えておくと、その年には、中部・ラサールともに合格している。高専に入った理由として、理系の教科が多いことも一つの理由である。中学浪人していた時期も、読書嫌いであった私は、一切、本は読まず、受験勉強のワークブックのみを勉強していた。受験勉強の本(教科書)のみを読み、受験勉強のみの対策をしていた。今は、そういう浪人時代の自分を後悔している。結果は、よかったが、小説などの本を読まなかった私は、人間としての教養を忘れていた感がする。

高専から大学に編入した。編入試験は国語・数学・化学・物理・英語・ドイツ語であり、数学の点

数が良かったので合格させていただいた。大学の数学の先生に、「私は国語が嫌いで、数学が好きです」と話したところ、予想に反して、「国語ができなければ、本当の数学は理解できないよ」と言われ愕然とした。当時の編入は、大学教養も含め3年間在籍しなくてはならず、最初の年の教養部での授業は時間にもものすごく余裕があった。これぞとばかりに、読むのが遅くとも、夏目漱石の『坊ちゃん』『吾輩は猫である』『それから』『門』『三四郎』『虞美人草』、武者小路実篤の詩集や『人生論』、国木田独歩の『武蔵野』などを読んだ。現在62歳であるが、以前から宗教に興味があったので、『聖書』『コーラン』に目を通しているが、自分の中にも悪魔的思いや、善良な思いが混在することと対比して、以前に読んだゲーテの『ファウスト』を違う訳者で読み返そうとしている。



一般人文系

中村 和之

「知的生産の技術をめぐって」



梅棹忠夫(うめさお・ただお、1920年~2010年)は、生態学、民族学、情報学、未来学とさまざまな分野で業績を残したことで知られ、大阪の千里万博記念公園に1977年に開館した国立民族学博物館の初代館長でもある。

『知的生産の技術』は、岩波書店が発行している『図書』という雑誌に連載した原稿をもとに一冊の本としてまとめたものである。本の題名は、日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹が、梅棹の相談を受けて、「それは一種の技術なのではないか」と答えたことによるという。

私は、高等学校時代に学んだ国語の教科書に「発見の手帳」が収められていて、梅棹の文書を初めて読んだ。たしか、万能の天才といわれたレオナル

ド・ダ・ビンチが、何でもかんでもメモを取る人であったこと、若き梅棹がレオナルドにあやかりたくて、そのまねをしたことが書いてあった。その後、大学に入学して、図書館でこの本を手に取り、国語の教材だと思っていた「発見の手帳」が、本の一部であったことを初めて知った。

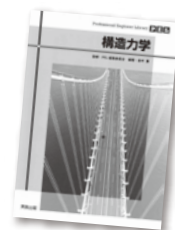
もちろんコンピュータが普及する前の時代の本であるから、すべてアナログの技術を前提に書かれている。しかし、ことばや画像から新しい情報を取り入れ、自分の考えをことばや画像で発信する人間という存在の本質がさほど変化しない以上、この本書によって得られることは非常に多い。ぜひご一読いただきたい。

平沢 秀之 (社会基盤工学科)

『構造力学』

(実教出版) p52-65 5章トラス 執筆

構造力学をこれから学ぶ、または現在学んでいる大学生・高専生向けに書いた教科書、参考書です。普段の予習復習用として活用できるよう工夫されています。各章には「授業の前にやっておこう!!」が設けられ、予習に最適なテーマが与えられています。全てのページに注釈のスペースが設けられ、「プラスアルファ」、「Let's TRY!!」、「Don't Forget!!」、「工学ナビ」などの補足説明が充実しています。かゆいところに手が届くような親切なテキストです。本書で構造力学を勉強すれば、成績アップ間違いなし!



奥平 理 (一般人文系)

『読みたくなる「地図」 東日本編 日本の都市はどう変わったか』

(海青社) P10-11 2. 函館 執筆

本書は、新旧地形図の時の断面を比較し、日本の各地域がどのように変貌してきたのかを視覚的にとらえることを目的として出版されました。

私は函館市の地理的・歴史的・文化的特色を新旧地形図の比較を交えながら、わかりやすく説明しています。



泊 功 (一般人文系)

『詳説 漢文句法』

(筑摩書房) p62-150 第二部 句法編 執筆

高校生や一般の漢文愛好家が自分で漢詩や漢文を訓読できるように手助けするためのテキスト。漢文と中国語の関係から始まって、漢文の決まり、漢文によく使われる句法や語彙、漢文学史まで、豊富な例文と練習問題で読者が理解しやすいように書いてあります。



中村 和之 (一般人文系)

『古代国家と北方世界』

(同成社) p96-165 流鬼国をめぐる試論 執筆

法政大学の小口雅史教授の還暦を記念した本で、『流鬼国をめぐる試論』を執筆している。唐の時代の史料に現れる流鬼国については、サハリン島とする説とカムチャツカ半島とする説があるが、後の時代の状況証拠から、サハリン島が正しいことを論証している。



『チャシコツ岬上遺跡 総括報告書』

(斜里町教育委員会) p113-115 第3節 チャシコツ岬上遺跡から出土した神功開寶の成分分析
本校 物質環境工学科 小林淳哉先生と共同執筆

斜里町のオホーツク文化の遺跡の発掘報告書で、皇朝十二銭のひとつである神功開寶が出土したことで有名になった。小林淳哉・中村和之『チャシコツ岬上遺跡から出土した神功開寶の成分分析』を寄稿している。



『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』

(山川出版社) p21-38 第2部 北海道島におけるアイヌの形成 執筆

高等学校の生徒を対象とした教科書として編さんされた本で、大学の学生でも学ぶことができる。『第2部 北海道島におけるアイヌの形成』を分担執筆した。



若手事務職員からのおすすめ本



総務課総務係
岡田 可奈子

私は文系教育学部を卒業しましたが、文字ばかりの本は苦手です。そのため、この本を紹介します。『なるほどデザイン』です。この本では、デザインのしくみが目で見てわかるので、デザインとはなんだろう、自分はセンスがない、と思っている方にもお勧めです。

どんな仕事についても、商品開発、プレゼンや資料作りなど、デザインを考える機会はあるだろうと



タイトル：なるほどデザイン
著者名：筒井 美希
出版社：エヌディエヌコーポレーション



思います。私自身も仕事を始めてから、どうデザインしたら人にうまく伝わるのかという事を考える機会が増えました。対象や目的に応じて伝え方を変えるというデザインの基本は、コミュニケーションにも繋がる事があるように感じます。思っている事をうまく相手に伝えられないと悩んでいる人にも、息抜きに読んでみてほしいです。



総務課経理係
福地 茉莉

このような推薦文を書く機会は今までなかったので、緊張しています。どのような本を紹介しようか迷いましたが、印象に残っているものを選んでみました。

この本は、大学一年の時、授業で題材として扱っていたものです。当時、東日本大震災が起り、災害に関する報道や情報が多くなっていた時期でもありました。そんな中、人は災害に直面すると、ただパニックになるだけでなく、互いに助け合おうと



タイトル：災害ユートピアなぜそのとき特別な共同体が立ち上がるのか
著者名：レベッカ・ソルニット
出版社：亜紀書房



する傾向があり、ある種の共同体が生まれることや、それが壊れるのは外的要因によるものが大きいことが指摘されており、驚きました。また、海外の災害の事例も詳しく紹介されており、授業の内容も個人的に楽しかったのも相まって印象に残っています。9月には北海道でも地震が起こるなど、災害は身近なものなので、これを機に考えてみるのもよいかもかもしれません。

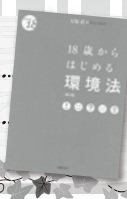


学生課教務係
高橋 直也

『18歳からはじめる環境法』はタイトルからわかるとおり環境法の入門書といえる一冊です。四大公害に代表されるような激甚な産業公害から、日常生活に起因する都市型環境問題（例えば、自動車排気ガスによる大気汚染や大量生産・大量消費に伴うゴミ処理の問題）、地球環境問題まで様々な環境問題が扱われています。そしてこれらの問題に、「どのように対処してきたのか」、「どのように対処すべきであるのか」が、法律的視点からわかりやすく述べられています。

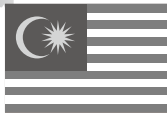


タイトル：18歳からはじめる環境法
著者名：大塚 直
出版社：法律文化社



現代社会では、あらゆる活動が環境に適合した形であることが求められます。高専生の皆さんは、まさに今学んでいる技術でこの課題に取り組むことが予想されます。その際に、この本を読んだ経験が、その課題を解決する方法の幅を広げることになるかも知れません。

将来、研究者・技術者として活躍されるであろう皆さんには、お時間がある際には是非ご一読いただければと思います。



私と図書館



4年物質環境工学科
シャズワニ
(FAIRUZ SYAZWANI BINTI MAHDZIR)
留学生(マレーシア出身)

小学校のときの私はよく図書館を利用する人ではありませんでした。しかし、高校1・2年生のとき、授業は午後から始まるにもかかわらず、朝10時に登校した私は暇だったので、図書館へ通うようになりました。

高校のとき、図書館の先生は厳しかったので、友達とお喋りなどをしたら、すぐ怒られたが、おかげで、静かな雰囲気ですぐ小説を読むことができました。図書館へ通うようになった私は、毎日小説に触れることで、小説を読むことが好きになりました。

学年が上がるにつれて、勉強が忙しくなり、今まで以上に図書館で過ごす時間が長くなりました。私が日本留学の準備学校に入っても、テストや試験など集中力が必要なときは図書館へ行っていました。

今高専で勉強している私はレポートなどで忙しく、参考文献も必要で、図書館で日々を過ごす毎日を送っています。図書館がなければ、きっと私は何もできないのです。図書館は私と一番近い存在だと思います。

図書委員の活動報告

< 図書委員代表から >

3年生産システム工学科電気電子コース 早瀬 匠

私は去年も図書委員長を務めており、去年と同じように進行していました。今回の活動で進行することの難しさを知りました。私自身ずぼらなところがあるので無理な日にち設定をしてしまうなどして委員会のメンバーにとっても迷惑をかけたと反省しています。

まず大幅に予定を遅らせて開催したブックハンティングでは人数は少なかったですが蔵書を増やすことができ、参考書や小説を読む良い機会となりました。本についての紹介カードを描くPOP展示では、きれいなPOPも多く、本を読む意欲を高めるような素晴らしいPOPを委員会のメンバーが作成していました。そして、毎年高専祭で開催されるビブリオバトルでは、図書館での開催となりましたが、予想していたよりも多くの方に見に来ていただいて本当に良かったです。バトラーの発表もどれも興味を引くように工夫が凝らされていました。

最後になりますが、図書委員のメンバー、協力してくださった先生方や図書館の職員の方々、本当にありがとうございました。

< ブックハンティング >

2年生産システム工学科1組 高橋 拓仁

2018年8月21日。文教堂書店函館昭和店に私たちブックハンティング班はやってきた。目的は図書館に新しく蔵書する本を各々で選ぶためである。推理小説を好んで選ぶ者、勉強に関する書籍を選ぶ者など、とにかく自由に自分の読みたいものを中心に選ぶ。

最初は恐る恐るといった様子で店内を物色していた図書委員達だったが何十分もしないうちに、その目は真剣なものへと変わっていった。静寂に溢れたこの場所で、手に持つカゴに幾冊もの書籍を積んでいく。

そして、約1時間ほど経つ頃にはカゴの中に大小様々な大きさの書籍が並んでいた。

予算の関係で断念せざるを得ない書籍も多数あったが、各々素晴らしい書籍を選択できたのではないかと思う。

図書委員の特権的な感じで、自分の読みたい本を選んでしまったが、どれも面白かったり、タメになったりする本ばかりなので、図書館に来た時には是非読んでみてほしい。

< POP・企画展示 >

5年社会基盤工学科 高橋 凪人

普段生活している中でもスーパーや書店で何気なく見かけるPOPですが、私はこれまでPOPの制作に携わったことはありませんでした。実際に制作してみて強く感じたことは非常に時間がかかるという点であり、POPの見やすさ、レイアウト、どうすれば興味を持ってもらえるかなど考え始めたらキリがありません。

今回、POP展示に携わった委員の作品も街中で見かけるPOP同様、非常にクオリティが高く、ユニークなものが多くありました。ここまで手の込んだPOPを展示すれば図書館の利用者も大幅に増えること間違いなしでしょう。文字数の関係で一つ一つの作品を詳しく説明することは出来ませんが、気になった方は是非図書館の方に足を運んでみてください。

最後になりますが、卒業研究や入試、課題が山積で多忙な時期でしたが、このような機会を設けていただき誠に感謝しております。



～展示中の様子～



～LL文庫展示テーマ「ホッと一息 本と一息」本の展示～

< ビブリオバトル >

2年生産システム工学科1組 北村 あさひ

今回、ビブリオバトルというものに参加させていただきました。

私は普段からよく本を読むので、友人などに本を薦めることもあるのですが、今回のように大会という形で観客の前に立ちお薦めする、というのは、したことが無かったのでとても緊張しました。参加させていただいて、ビブリオバトルの良さというのは、自分の本を薦めて観客に面白そうだな、興味があるなと思って貰えるように、もう一度自分の好きな本の面白いところを考察できるということ、自分だけではなく、ほかの参加者のお薦めを聞くことで知らなかった本を知り、興味を持てる、ということろだと思いました。

私の個人的な意見になってしまうのですが、こうした場で話をすることによってこれがきっかけで本を読む人が増えたりすることがあると思うので、これからもビブリオバトルを校内で開催できればいいなということと、見に来てくれる人や出場してくれる人が増えると嬉しいです。



～ビブリオバトルの集合写真～

図書館からのお得情報

図書館を上手に活用すると、自分で買うにはお高い専門書なども読むことができます。

学生希望図書

図書館カウンター前に、「学生希望図書申込書」があります。その用紙に必要事項を書き、窓口に提出するだけで、希望の図書を購入してもらえます。さらに、入荷した際には、優先的に借りることができます。気になる本を見つけたら、まず申し込んでみましょう。

ブックハンティング

毎年、7月～8月頃に行われるブックハンティングに参加してみませんか？参加者全員で、大型書店に直接行き、読みたい本を選ぶことができます。学生同士で本について話しながら選ぶことができますので楽しいですよ。

その他、OPACの使い方や本に関わる疑問・相談などありましたら、気楽にスタッフに声をかけて下さい。たくさんご利用をお待ちしております。

学年・学科別利用状況

学年・学科別 貸出冊数 (2018年4月1日～9月30日)

学年	組	1組	2組	3組	4組	5組					学年別計
1年		47	14	112	38	38					249
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科					学年別計
		1組	2組	3組							
2年		20	48	12	7	7					94
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	物質環境工学専攻	社会基盤工学専攻	学年別計
		機械コース	電気電子コース	情報コース							
3年		8	40	44	21	9					122
4年		40	4	42	150	3					239
5年		33	69	13	105	34					254
専攻科1年							32		10	1	43
専攻科2年							202	3			205
											1,206
											(総計)

1年3組、4年物質環境工学科、5年物質環境工学科のみなさん、貸出冊数が100冊を超えました！これからもたくさん借りてくださいね。

まだまだ図書館でお会いできていないクラスのみなさんも、スタッフ一同、来館をお待ちしております。

専攻科2年生生産システム工学専攻が、ダントツでトップ!! 後期も楽しみにしております。

- ・クラス別平均貸出冊数は、**40冊**でした。
- ・一番多く本を借りたクラスは**専攻科2年生生産システム**で**202冊**でした。
- ※図書館入口前には、クラス別の「貸出冊数グラフ」も掲示しているので、後期もお楽しみに！

編 集 後 記

今年も多くのご学生さん、教職員のみなさまからご寄稿をいただき、「図書館だより」をお届けできる運びとなりました。ご協力いただいたみなさまに、心よりお礼申し上げます。現代、私たちは様々なメディアに取り囲まれており、望む望まずにかかわらず、情報が怒涛の如く押し寄せて来ます。そんな中で手に取る一冊の本の質量、そこから伝わる物語への予感には、何か特別なものがありますね。大切にしたいと思います。

(澤村 秀治 記)

図書館だより NO.26

独立行政法人 国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校 図書館

函館市戸倉町14番1号
TEL 0138-59-6314

表紙題字：社会基盤工学科教授 平沢 秀之